

# 金沢港の機能強化について

平成30年 3月15日

石川県

# 金沢港整備の経緯

三八豪雪により道路等が使えなくなり、海上輸送の必要性が高まる

昭和45年金沢港開港

→長年利用が伸びず「釣堀」との揶揄も

【転機】

平成19年コマツ金沢工場建設

大浜ふ頭水深13m岸壁整備

釜山港との航路開拓



近年金沢港は大きく変貌

大浜ふ頭(H20~)  
(大型貨物船など)

コマツ金沢工場(H19~)

石油ふ頭(S45~)

五郎島ふ頭(S59~)

昭和37年当時

旧大野港  
船溜まり

大野川

掘り込んで  
整備

無量寺ふ頭(S48~)  
(クルーズ船など)

戸水ふ頭(S47~)  
(フェリー(RORO船)など)

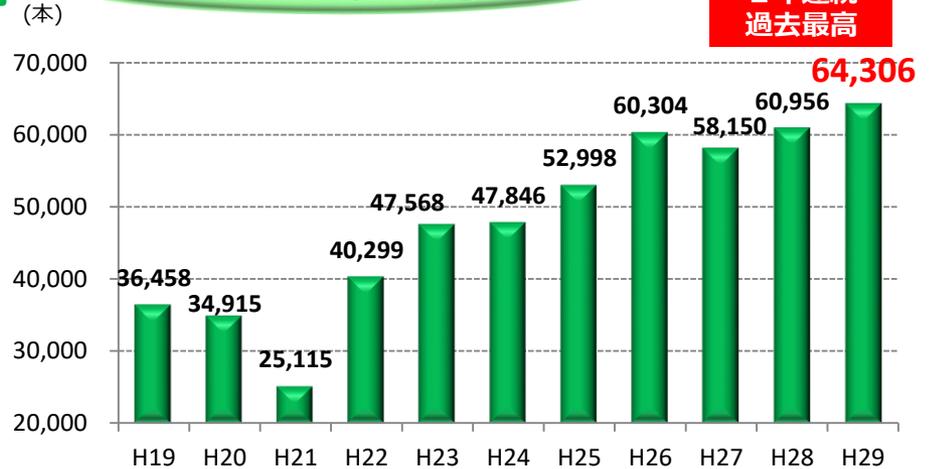
御供田ふ頭(S53~)  
(コンテナ船など)

# 近年の金沢港の大きな変貌

## ●コンテナ貨物、国際定期航路数の増加

- ・県内企業の金沢港利用率  
平成18年：26% ⇒ 平成25年：45%
- ・国際定期航路数 **週9便**
- ・コンテナ取扱量  
H28：6万本、H29：6万4千本超  
⇒ **2年連続で過去最高を更新**

### コンテナ貨物の推移

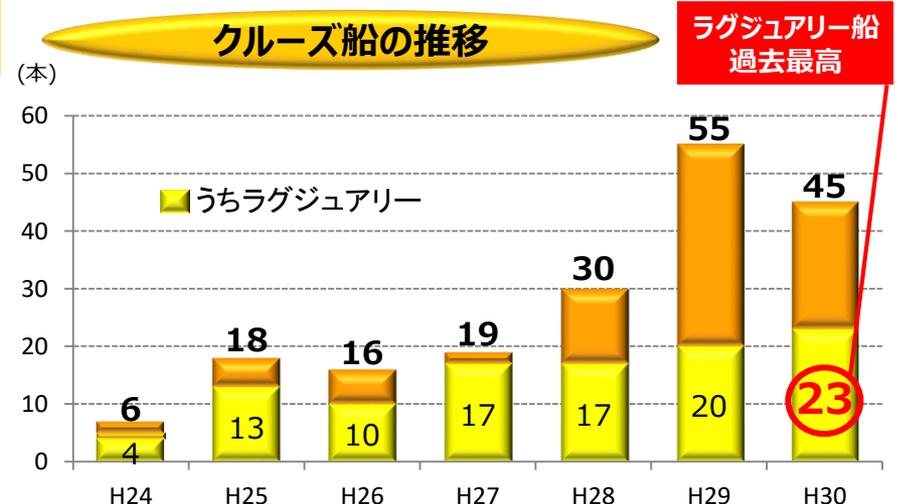


平成19年のコマツの金沢工場立地を契機に、**貨物増→航路数増→貨物増**という好循環

## ●クルーズ船の増加

- ・クルーズ船寄港数  
H30：45本 ⇒ **本州日本海側トップクラス**  
うちラグジュアリー船：23本 ⇒ **過去最高**  
大型クルーズ船：7本 ⇒ **過去最高**  
日本海周遊クルーズ：11本
- ・寄港する船会社数  
H24：4社 ⇒ H30：10社 (2倍以上)

### クルーズ船の推移



世界的に有名な観光地（兼六園、ひがし茶屋街、白川郷、永平寺など）に近いことから、「北陸の玄関口」となっている地理的優位性に加え、新幹線開業が追い風となり寄港数が増加

# クルーズ・貨物の拠点港化に向けた金沢港の機能強化

現状

クルーズとコンテナが輻輳



乗客が貨物ヤードの中に設置した仮設テントで手続き



50m道路から直接港に進入できない

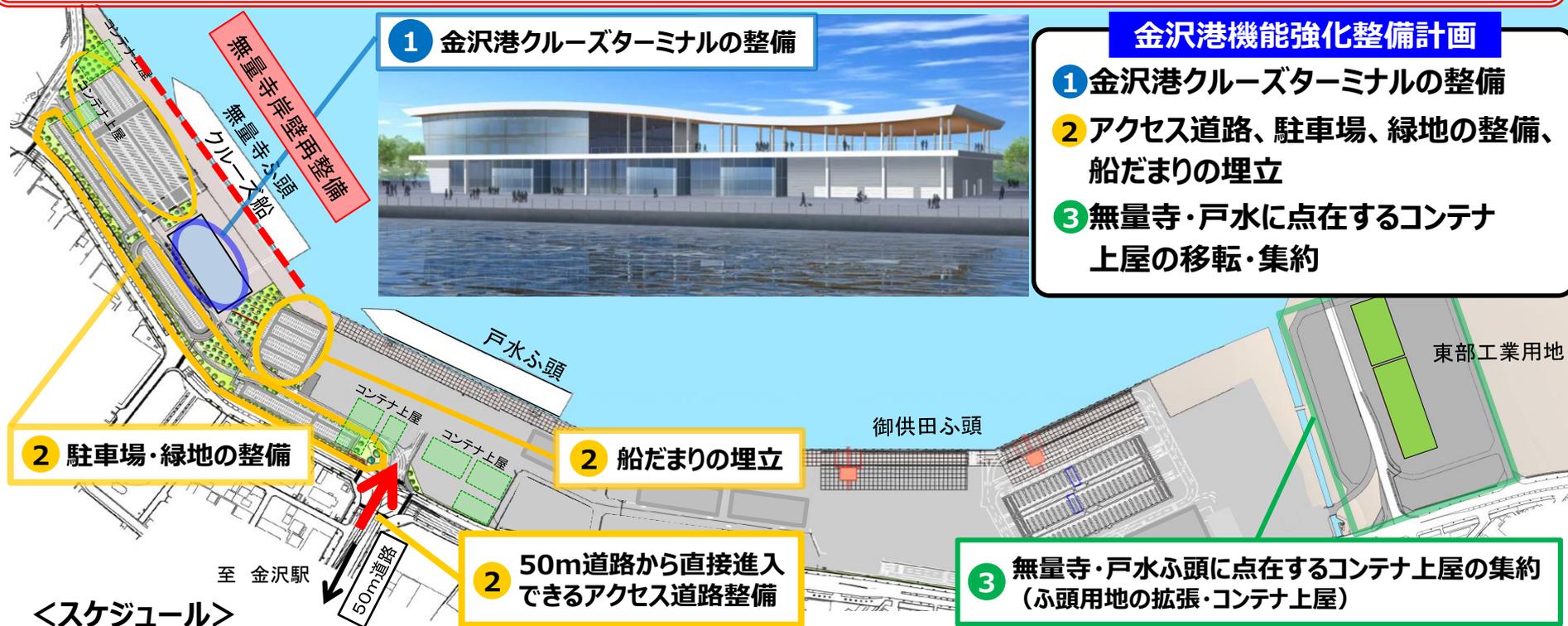


## 金沢港の機能強化 (東京オリンピック・パラリンピック前年の2019年度までの完成を目指す)



# 金沢港機能強化整備（クルーズ・貨物の増加への対応）

東京オリンピック・パラリンピックの開催前年である2019年度末までの完成を目指す



## 金沢港機能強化整備計画

- ① 金沢港クルーズターミナルの整備
- ② アクセス道路、駐車場、緑地の整備、船だまりの埋立
- ③ 無量寺・戸水に点在するコンテナ上屋の移転・集約

内容	2017年度			2018年度				2019年度				
	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	
クルーズ機能強化	① 金沢港クルーズターミナル	設計			金沢港クルーズターミナルの建設							
	② アクセス道路、駐車場、緑地	設計			アクセス道路、駐車場、緑地の整備							
	② 船だまり埋立	設計			埋立工事							
コンテナ機能強化	造成			新設上屋の建設				既設撤去				

整備計画策定